

# 栄養教育論実習における実習方法と 教育効果に関する一考察(7)

## —実習課題別ルーブリック評価の提案—

平光美津子

(東海学院大学 健康福祉学部 管理栄養学科)

### 要 約

管理栄養士養成課程の「栄養教育論実習」における模擬栄養教育で行うプレゼンテーションの評価について、前報で、ルーブリック評価を導入する案を示し考察した。継続しそれ以外の実習課題についてルーブリック表を試案した。

ルーブリック表は「課題」「評価尺度」「評価観点」「評価基準」で構成し、「評価観点」に実習課題(題材)のねらいを示し、「評価基準」は客観的な見方・考え方を表現するように配慮した。学習者は「評価観点」を目指して実践を積むことによって、最終的な総合評価に繋がれると考察した。評価基準の表現は学習者が公平に解釈できるよう今後も検討していく。

キーワード：栄養教育、実習課題、ルーブリック評価

### 1. はじめに

栄養教育論実習における実習方法と教育効果を主題とした考察は7報目となり、前報<sup>1)</sup>に続き学習成果を客観的に評価する方法について提案することを目的とした。

栄養士法に準ずる「管理栄養士・栄養士のための栄養学教育モデルコアカリキュラム<sup>2)</sup>」では、管理栄養士課程における「必須の実践的能力(知識・技能・態度)」の到達目標に基づき、「多様な場における栄養教育の実践」という項目が示されている。栄養教育論の講義で得た知識を基に、実践の技能を習得する手段は実習であり中でも「模擬栄養教育のプレゼンテーション」を重視したい。プレゼンテーションの評価はルーブリック評価法<sup>3)</sup>が適すると前報<sup>1)</sup>で提案したことに続き、本報は他の実習課題についてもルーブリック表を試案し、実習課題の具体的な評価基準を示し実習のねらいと到達度を再確認した。

### 2. 自己評価表について

ルーブリック評価法に着目する前は、実習項目の指標に「～を理解している」「～を習得している」などを示し、5段階評価の「学習のカルテ」(筆者案)を用いてきた。参照した資料は、文部科学省教職履修カルテの自己評価シートであり「必要な資質能力の指標」の項目指標別に5段階で自己評価点を記入させる様式<sup>4)</sup>である。基本的な自己評価シート(5段階評価)の例を、表1に示す。

自己評価シートの詳細は、本表題の副題(1)～(6)<sup>5-9)</sup>の副題(3)<sup>7)</sup>で報告した。「模擬栄養教育のプレゼンテーション」は、学習者が発表者となりその技能を評価する。プレゼンテーションは聴く側の立場になって話すという技能が求められるが、発表者は主観的な尺度で自己評価をするのではないかと考え、点数の説明が必要となった。

表2は基本的なルーブリック表(評価尺度3)例<sup>10)</sup>の引用で、学習の達成度(成功の度合い)を評価する場合に用いる。「課題」と「評価観点」を明記し、「評価尺度」と「評価基準」で構成するマトリックスの表である。一般的には、縦列に「評価観点(課題が求める具体的な知識や技能等)」を、横列に「評価尺度(達成度3～5点)」を置き、「評価観点」と「評価尺度」のクロス枠に、「評価基準」の具体的なフィードバック内容の説明を記す。栄養教育論実習のプレゼンテーションについては「評価尺度」を5段階とし、「評価観点」は実習題材のねらいに対応させ、評価観点別に「評価基準」の説明を示した表を作成することにした。

表1. 基本的な自己評価シート(5段階評価)の例  
必要な資質能力についての自己評価

必要な資質能力の指標		自己評価
項目1	指標(～を理解している)	1・2・3・4・5
項目2	指標(～を習得している)	1・2・3・4・5
項目3	指標(～が身につけている)	1・2・3・4・5

出典：文部科学省教職履修カルテの自己評価シート<sup>4)</sup>を改変

表2. 基本的なルーブリック表(評価尺度3)例  
課題: ○○○

	評価尺度1	評価尺度2	評価尺度3
評価観点1	評価基準1-1	評価基準1-2	評価基準1-3
評価観点2	評価基準2-1	評価基準2-2	評価基準2-3
評価観点3	評価基準3-1	評価基準3-2	評価基準3-3
評価観点4	評価基準4-1	評価基準4-2	評価基準4-3

出典: 佐藤浩章監訳, 大学教員のためのルーブリック評価入門, 玉川大学出版部, 2018年, p.4<sup>10)</sup>

### 3. プレゼンテーション用のルーブリック表

プレゼンテーション用のルーブリック表は前報<sup>1)</sup>で示したが、評価観点別に4分割し「評価基準」の表現を改編して再掲する。表2の例は「評価尺度」が横列であるが、5段階尺度が本稿の横幅に収まらないため、横列と縦列を入れ替えて示す。表3のプレゼンテーション①～④は、「評価観点」を「内容に関わる知識」「内容に関わる資料(図・表)」「発表態度:アイコンタクト」「発表態度:声・意思」の4項目に分けたものである。「評価観点」は「～ができる」という表現で実習のねらいを記し、「評価基準」を1～5の尺度に合わせて客観的な表現に配慮した。

ルーブリック評価については、平成28年文部科学省「総則・評価特別部会の資料6-2(学習評価に関する資料)<sup>11)</sup>」の学習評価の方法について多様な評価方法の研究や取り組みの中でも紹介された。紹介文の一部を引用すると、「成功の度合いを示す数レベル程度の尺度とそれぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した評価基準からなる評価基準<sup>12)</sup>」とあり、プレゼンテーションを含む技術面の評価に適した評価表であると確認した。

表3の「評価観点」に対応させた「評価基準」の客観的な表現について説明する。プレゼンテーション①の「内容に関わる知識」の観点は、「知識を得ている」ことに加え「質問に答えることができる」をねらいとしたので3点を中間とし、2点, 1点の語尾は「答えることができない」、4点, 5点の語尾は「答えることができる」とし、細部の表現で段階の程度を区別した。プレゼンテーション②の「内容に関わる資料(図・表)」の「評価観点」は「資料を検討することができる」がねらいなので、3点は「図・表を使用している」と中間におき、4点は、図表を作成する技能を含め「プレゼン内容に関わる数値を視覚的にわかりやすくするように図表化することができる」とし、5点は概念を視覚的にわかりやすくすることも加えて4点を超える表現とした。プレゼンテーション③④「発表態度:アイコンタクト」と「声・意思」は、話す技能・態度に関わり、3点を中間とし、2点, 1点はマイナスの表現に、4点, 5点はプラスの表現とした。

表3. プレゼンテーション①～④のルーブリック表

#### プレゼンテーション① 「内容に関わる知識」

評価観点 評価尺度(点)	
	プレゼン内容に関わる知識を得ていて、質問に答えることができる。
1	内容に関わる知識がかなり乏しく、質問に答えることができない。
2	内容に関わる知識が乏しく、質問に答えることができない。
3	内容に関わる知識に自信がなく、初歩的な質問には答えることができる。
4	内容に関わる知識を得ていて、プラスの質問の一部について答えることができる。
5	内容に関わる知識を十分に得ていて、プラスの質問に詳しく答えることができる。

#### プレゼンテーション② 「内容に関わる資料(図・表)」

評価観点 評価尺度(点)	
	プレゼン内容に関わる資料(図・表)を検討することができる。
1	プレゼン内容に関わる図・表はわかりやすいということに気づいていない。
2	プレゼン内容に関わる図・表を使用していない。
3	プレゼン内容に関わる図・表を使用している。
4	プレゼン内容に関わる数値を視覚的にわかりやすくするように図表化することができる。
5	プレゼン内容に関わる概念や数値を視覚的にわかりやすくするよう図表化することができる。

#### プレゼンテーション③ 「発表態度:アイコンタクト」

評価観点 評価尺度(点)	
	発表態度のアイコンタクトを意識してとることができる。
1	資料を読むだけで、アイコンタクトをとろうとしない。
2	資料を読むだけで、アイコンタクトをとることができない。
3	ほとんど資料を読んでいるが、時々、アイコンタクトをとることができる。
4	ほとんど資料を見ているが、アイコンタクトをとることができる。
5	資料はほとんど見ていないで、アイコンタクトをとることができる。

#### プレゼンテーション④ 「発表態度:声・意思」

評価観点 評価尺度(点)	
	発表態度の声は聞きやすく、相手に伝える意思を態度に表すことができる。
1	声は聞きづらく、相手に伝える意思が全く感じられない。
2	声は聞きづらく、相手に伝える意思が感じられない。
3	声は聞こえていて、相手に伝える意思があることがわかる。
4	声は聞きとりやすく、相手に伝える意思があることがよくわかる。
5	声は聞きとりやすく、相手に伝える意思があることがはっきりとわかる。

## 4. 実習課題と題材とねらい

管理栄養士養成施設における各科目の授業計画に示す目的・到達目標は、栄養士法と平成14年施行の厚生労働省令「栄養士法施行令の一部を改正する政令等の施行(平成13年厚生労働省, 健医発第936号, 参考2<sup>12)</sup>)」に関わる教育目標に則り認可されたものである。

栄養教育論実習を担当するにあたり工夫していることは、実習課題(大項目)の中に複数の実習題材(小項目:課題を構成する要素)を組み合わせることで基礎から応用へと進め、授業計画<sup>13)</sup>に示す目的・到達目標を達成できるように全体を構成することである。学習者は題材の説明を聴き演習形式でワークシートを作成し、グループで討議やプレゼンテーションなどを体験し栄養教育の方法を身につける。授業計画の下に実施する実習課題(大項目)は、大きくまとめると5項目となり題材(小項目)のねらいは「～ができる」という表現で表4に示した。学習者は題材を単にこなすのではなく、ねらいの説明を解釈して到達目標に近づくためにはどのようなことができればよいのか意識し、具体的には期待される観点を目指して何を知識とし、どのような技能を身に付けてどのような態度をとるのかというガイドラインにもなる。題材のねらいの達成は、全課題に関わる実践力(知識・技能・態度)に繋がって総合的な到達目標の達成となる。ルーブリック表の「評価観点」には、題材のねらい「～ができる」をそのまま転記することにした。

表4. 実習課題と実習題材・ねらい

実習課題(大項目) (知識・技能・態度)	実習題材(課題を構成する要素)の目標 「ねらい(～ができる)」
1. 集団教育実践: 大学生の食生活上の課題についてのグループ学習・討議の実施	1-①集団の食生活データを評価し6・6式討議により食事改善法のための教育方法を提案できる。
	1-②食事記録・問診・生活行動等について分析し活用できる。
	1-③測定・調査、食事摂取基準値等を理解し活用できる。
2. 集団の教育形態の体験学習: 対象特性別集団栄養教育計画の実施(ライフステージ別、肥満・糖尿病・脂質異常症など)	2-①集団の対象者の特性を理解し栄養教育計画を作成することができる。
	2-②集団の対象者の栄養教育計画に沿った教材を作成し活用することができる。
3. 個人の教育形態の体験学習: 栄養カウンセリングの体験、栄養教育教材作成	3-①栄養カウンセリングの場で栄養士の役割演技ができる。
	3-②栄養カウンセリングの栄養教育教材を作成し活用することができる。
4. グループによる対象特性別集団と個人栄養教育計画の作成: アセスメントのための情報収集、栄養計画・栄養教育プログラム作成・教材作成	4-①集団・個人のアセスメント情報の収集・分析がグループでできる。
	4-②集団・個人の栄養教育プログラムと教材作成の意見交換がグループでできる。
	4-③集団・個人の栄養教育教材をグループで作成できる。
5. グループによる対象特性別集団と個人の栄養教育実施と相互評価	5-①集団・個人の栄養教育のプレゼンテーションが実施できる。
	5-②集団・個人の栄養教育実施に対する相互評価・意見交換ができる。
	5-③栄養教育のプレゼンテーションについて相互評価後の改善ができる。

## 5. 実習課題の題材別のルーブリック表

管理栄養士課程の専門科目で、本科目以外の実習科目にルーブリック評価を用いた先例<sup>14)</sup>があり参考とした。この例は全ての課題についてグループ討議を行い、発言を重視していた。様式は、目標、ルーブリック表、内容、ワークシートなどで構成されるルーブリック表の「評価尺度」は3段階であった。本実習では5段階尺度を使用してきた経緯と、3段階は優劣をつけ難い場合に中間を選ぶのではないかと考えたので、やや良い、やや悪いも評価できる5段階でルーブリック表を試案した。表4の実習題材の目標(1-①～5-③)別に表5に示す。尚、表4の「5-①集団・個人の栄養教育のプレゼンテーションが実施できる」については、表3の①～④に示したので表5から外した。

表4の実習題材の「ねらい(～ができる)」という表現は、表5の題材別ルーブリック表の評価観点に転記し、「評価基準」を1～5の尺度に合わせて客観的な表現に配慮した。

3点は中間とし2点、1点は減点に、4点、5点は加点の表現とした。仮に5点が目指す資質能力(知識・技能・態度)とすると3点は、6割の能力となる。3点は実習科目の到達度の最低ラインと解釈するならば、題材別に評価尺度3点以上の評価を積み重ねていくことになる。

表5. 実習課題の題材別のルーブリック表

### 1-①6・6式討議

評価観点 評価尺度	集団の食生活データを評価し、6・6式討議により食事改善のための教育方法を提案できる。
1	集団の食生活データを評価でき、改善方法を思いつくことができない。
2	集団の食生活データを評価でき、改善方法をいくつか思いつく。
3	集団の食生活データを評価でき、改善方法を思いつき、教育方法を考えることができる。
4	集団の食生活データを評価でき、改善方法をいくつか提案ができ、教育方法を考え意見交換ができる。
5	集団の食生活データを評価でき、改善方法をいくつか提案ができ、教育方法を考え意見交換でき、意見をまとめることができる。

### ①-2. 食事記録・問診・生活行動等の分析

評価観点 評価尺度	食事記録・問診・生活行動等について分析し活用できる。
1	食事記録・問診・生活行動等について分析する内容を理解できない。
2	食事記録・問診・生活行動等について分析する内容の一部を理解している。
3	食事記録・問診・生活行動等について分析する内容を理解している。
4	食事記録・問診・生活行動等について分析する内容を理解し、一部を活用することができる。
5	食事記録・問診・生活行動等について分析する内容を理解し、全てを活用することができる。

1-③測定・調査、食事摂取基準値等の活用

評価観点 評価尺度	評価内容
	測定・調査、食事摂取基準値等を理解し活用できる。
1	測定・調査、食事摂取基準値等の内容を理解できない。
2	測定・調査、食事摂取基準値等の内容の一部を理解している。
3	測定・調査、食事摂取基準値等の内容を理解している。
4	測定・調査、食事摂取基準値等の内容を理解し一部を活用できる。
5	測定・調査、食事摂取基準値等の内容を理解し活用できる。

2-① 集団の栄養教育計画作成

評価観点 評価尺度	評価内容
	集団の対象者の特性を理解し栄養教育計画を作成することができる。
1	集団の対象者の特性を理解し栄養教育計画を作成できない。
2	集団の対象者の特性を理解し栄養教育計画の一部を作成することができる。
3	集団の対象者の特性を理解し栄養教育計画を作成することができる。
4	集団の対象者の特性を理解し栄養教育計画を作成し、一部を説明できる。
5	集団の対象者の特性を理解し栄養教育計画を作成し、全てを説明できる。

2-②集団の栄養教育の教材作成と活用

評価観点 評価尺度	評価内容
	集団の対象者の栄養教育計画に沿った教材を作成し活用することができる。
1	集団の対象者の栄養教育計画に沿った教材を作成できない。
2	集団の対象者の栄養教育計画に沿った教材の一部を作成することができる。
3	集団の対象者の栄養教育計画に沿った教材を作成することができる。
4	集団の対象者の栄養教育計画に沿った教材を作成し、一部を活用できる。
5	集団の対象者の栄養教育計画に沿った教材を作成し、活用できる。

3-①栄養カウンセリングの役割演技

評価観点 評価尺度	評価内容
	栄養カウンセリングの場面で栄養士の役割演技ができる。
1	栄養カウンセリングの場面で栄養士の役割演技について理解ができない。
2	栄養カウンセリングの場面で栄養士の役割演技について一部を理解している。
3	栄養カウンセリングの場面で栄養士の役割演技について理解し、シナリオを使えば演じることができる。
4	栄養カウンセリングの場面で栄養士の役割演技について理解し、自分の言葉で一部を演じることができる。
5	栄養カウンセリングの場面で栄養士の役割演技について内容を理解し、自分の言葉で演じることができる。

3-②栄養カウンセリングの栄養教育の教材作成と活用

評価観点 評価尺度	評価内容
	栄養カウンセリングの栄養教育教材を作成し活用することができる。
1	栄養カウンセリングの栄養教育教材を作成できない。
2	栄養カウンセリングの栄養教育教材の一部を作成することができる。
3	栄養カウンセリングの栄養教育教材を作成することができる。
4	栄養カウンセリングの栄養教育教材を作成し、一部を活用できる。
5	栄養カウンセリングの栄養教育教材を作成し、活用できる。

4-①集団・個人のアセスメント情報を収集・分析(グループ)

評価観点 評価尺度	評価内容
	集団・個人のアセスメント情報の収集・分析がグループでできる。
1	集団・個人のアセスメント情報の収集・分析が理解できず、グループに説明できない。
2	集団・個人のアセスメント情報の収集・分析を理解し、グループに説明ができない。
3	集団・個人のアセスメント情報の収集・分析を理解し、グループに説明ができる。
4	集団・個人のアセスメント情報の収集・分析を理解し、グループに十分な説明ができる。
5	集団・個人のアセスメント情報の収集・分析を理解し、グループに説明し意見交換ができる。

4-②集団・個人の栄養教育プログラムと教材作成の意見交換(グループ)

評価観点 評価尺度	評価内容
	集団・個人の栄養教育プログラムと教材作成の意見交換がグループでできる。
1	集団・個人の栄養教育プログラムと教材作成が理解できず、意見交換ができない。
2	集団・個人の栄養教育プログラムと教材作成の一部を理解し、意見交換が少しできる。
3	集団・個人の栄養教育プログラムと教材作成を理解し、意見交換ができる。
4	集団・個人の栄養教育プログラムと教材作成を理解し、十分な意見交換ができる。
5	集団・個人の栄養教育プログラムと教材作成を理解し、十分な意見交換とまとめができる。

4-③集団・個人の栄養教育教材作成(グループ)

評価観点 評価尺度	評価内容
	集団・個人の栄養教育教材をグループで作成できる。
1	集団・個人の栄養教育教材作成を理解できず、グループで作成できない。
2	集団・個人の栄養教育教材作成の一部を理解し、グループで作成する一部ができる。
3	集団・個人の栄養教育教材作成を理解し、グループで作成ができる。
4	集団・個人の栄養教育教材作成を理解し、グループで十分な作成ができる。
5	集団・個人の栄養教育教材が作成の内容を理解し、グループで作成し指示やまとめができる。

5-②集団・個人の栄養教育実施に対する相互評価・意見交換

評価観点 評価尺度	集団・個人の栄養教育実施に対する相互評価・意見交換ができる。
1	集団・個人の栄養教育実施に対する相互評価・意見交換の内容を理解できない。
2	集団・個人の栄養教育実施に対する相互評価・意見交換の内容の一部を理解している
3	集団・個人の栄養教育実施に対する相互評価・意見交換の内容を理解し自分の意見が言える。
4	集団・個人の栄養教育実施に対する相互評価・意見交換の内容を理解し意見交換ができる
5	集団・個人の栄養教育実施に対する相互評価・意見交換の内容を理解し意見交換ができ、発展的な提案ができる

5-③相互評価後の改善

評価観点 評価尺度	栄養教育のプレゼンテーションについて相互評価後の改善ができる。
1	相互評価後の改善内容を理解できない。
2	相互評価後の改善内容の一部を理解している。
3	相互評価後の改善内容を理解している。
4	相互評価後の改善内容を理解し、改善策を説明できる
5	相互評価後の改善内容を理解し、改善策を具体的に説明できる。

6. 今後の課題

栄養教育論実習の「実習課題の題材別のルーブリック表」の様式(表5)を作成するために留意したことは、「評価基準」について、「評価観点」のねらいと一致させながら1～5の評価尺度に照合させる意図を含み、客観的な表現に配慮したことである。学習者が主観的に判断しがちな自己評価は、「評価基準」があると明確で公正な評価に繋がるのではないかと考える。しかし、「評価観点」のねらいに複数の要素を入れていると、どれに重点を置いて評価するのか不明瞭となる。また、グループで行う題材の場合は個人のワークの場合と異なり、協調性・発展性・主体性の要素が加わるので「評価観点」をさらに区別する必要があるという課題が残った。

実習では講義で得た知識に加えて思考力や判断力が必要なので、講義内容の復習を並行して知識の維持を支援しながら進めていきたい。知識の上に実習科目の技能が加わり、得た技能の到達度を自己評価することは学習者にとって重要と考える。学習者が評価観点と評価基準の説明をどのように解釈するかについても関係するので、授業担当者が求める達成度と学習者が身に付けたものが一致して成立するものと考えている。実際にルーブリック評価表を使用し、運用する際の問題点を継続して探っていきたい。

引用文献

- 1) 平光美津子, (2019年) 栄養教育論実習における実習方法と教育効果に関する一考察—模擬栄養教育のためのルーブリック評価の提案—, 東海学院大学紀要, 第13号, 139-144
- 2) 特定非営利活動方針日本栄養改善学会, (2019) 管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデルコアカリキュラムの考え方  
[http://jsnd.jp/img/public\\_comment\\_shiryo16.pdf](http://jsnd.jp/img/public_comment_shiryo16.pdf)  
(最終アクセス2020/09/09)
- 3) 文部科学省, 第4章パフォーマンス評価について教師略向上に向けた研修の方向性(図30), 文部科学省HP  
[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afiedfile/2017/10/04/1395572\\_02.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afiedfile/2017/10/04/1395572_02.pdf)(最終アクセス2020/09/09)
- 4) 文部科学省, 教職課程認定申請の手引き, 教職履修のカルテ, 文部科学省HP  
[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afiedfile/2018/11/28/1267643\\_01.pdf#search=%27E6%96%87%E9%83%A8%E7%A7%91%E5%AD%A6%E7%9C%81%E6%95%99%E8%81%B7%E5%B1%A5%E4%BFAE%E3%82%AB%E3%83%AB%E3%83%86%E3%81%AE%E8%87%AA%E5%B7%B1%E8%A9%95%E4%BE%A1%E3%82%B7%E3%83%BC%E3%83%88%27](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afiedfile/2018/11/28/1267643_01.pdf#search=%27E6%96%87%E9%83%A8%E7%A7%91%E5%AD%A6%E7%9C%81%E6%95%99%E8%81%B7%E5%B1%A5%E4%BFAE%E3%82%AB%E3%83%AB%E3%83%86%E3%81%AE%E8%87%AA%E5%B7%B1%E8%A9%95%E4%BE%A1%E3%82%B7%E3%83%BC%E3%83%88%27) (最終アクセス2020/09/09)
- 5) 平光美津子, (2015年) 栄養教育論実習における実習方法と教育効果に関する一考察—学生による自己評価を通して—, 東海学院大学紀要, 第8号, 105-110
- 6) 平光美津子, (2016年) 栄養教育論実習における実習方法と教育効果に関する一考察(2)—学生による自己評価を通じた実習方法の改善—, 東海学院大学紀要, 第9号, 217-222
- 7) 平光美津子, (2016年) 栄養教育論実習における実習方法と教育効果に関する一考察(3)—学生のための学習カルテの提案—, 東海学院大学紀要, 第10号, 147-154
- 8) 平光美津子, (2017年) 栄養教育論実習における実習方法と教育効果に関する一考察(4)—栄養教育プログラムにおけるアクティブ・ラーニング法—, 東海学院大学紀要, 第11号, 123-129
- 9) 平光美津子, (2018年) 栄養教育論実習における実習方法と教育効果に関する一考察(5)—栄養教育プログラム作成のためのカリキュラムマネジメント—, 東海学院大学紀要, 第12号, 143-150

## 栄養教育論実習における実習方法と教育効果に関する一考察(7)

- 10) ダネル・スティーブンス, アントニア・レビ著, 佐藤浩章監訳, 大学教員のためのルーブリック評価入門, 玉川大学出版部, 2018年
- 11) 文部科学省, 平成28年学習評価に関する資料, 総則・評価特別部会, 資料6-2  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/061/siryo/\\_icsFiles/afiedfile/2016/02/01/1366444\\_6\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/061/siryo/_icsFiles/afiedfile/2016/02/01/1366444_6_2.pdf) (最終アクセス2020/09/09)
- 12) 厚生労働省, 栄養士法施行令の一部を改正する政令等の施行について, 健医発第936号, 平成13年9月21日  
[https://www.mhlw.go.jp/web/t\\_doc?dataId=00ta5075&dataType=1&pageNo=1](https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00ta5075&dataType=1&pageNo=1) (最終アクセス2020/09/09)
- 13) 栄養教育論実習Syllabus, 東海学院大学, 令和2年度  
<https://cpweb.tokaigakuin-u.ac.jp> (最終アクセス2020/09/09)
- 14) 鈴木美枝, 中谷弥栄子編, 公衆栄養学実習, 第一出版, 2017

### A Study on Practice Methods and Educational Effects in Nutrition Education Practice (Part7) A Proposal for a Practicum Rubric Assessment

HIRAMITSU Mitsuko